

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構建築研究本部 北方建築総合研究所

mail magazine【建築研究本部かわらばん】VOL. 87 2016/11/18

このメールマガジンは、建築研究本部 北方建築総合研究所が、日頃の調査研究、普及業務などで携わっているニュースを中心に、毎月お送りしているものです。

-----  
今月号のトピックス  
-----

第87号の内容はこちらです。

■イベントのお知らせ

- クールチョイスフォーラムで講演します(11月26日・旭川市)
- “きた住まいる全道一斉オープンハウススタンプラリー”を開催中です(11月30日まで)

■研究紹介

- 「ひと・もの・価値のフロー」を可視化する手法の開発

■ひとことエッセイ

- 「ブルーグラス」

■最近の研究所の動き

- ジャパンホーム&ビルディングショー2016に出展しました
- 構造計算適合性判定センターから

■次号のお知らせ

- 「JNL A」とは

-----  
イベントのお知らせ  
-----

■クールチョイスフォーラム(11月26日・旭川市)で講演します

旭川市が主催する地球温暖化対策の普及啓発活動「いきいき旭川34万人のクールチョイスキャンペーン」のイベントのひとつとして、旭川駅前のイオンホールで、“クールチョイスフォーラム”が開催されます。家庭内のエネルギーの最適化などについて、北総研職員が基調講演を行います。

日 時 平成28年11月26日(土) 12:00~17:00  
(※講演会は14:10~14:55です。)

会 場 イオンモール旭川駅前4階 イオンホール(旭川市宮下通7丁目)

講 師 北方建築総合研究所 研究主幹 月館 司

テーマ 「みらいを創るスマートハウス」

多くのみなさまのご来場をお待ちしております。  
詳しくはこちらからご覧ください。

↓↓

[http://www.city.asahikawa.hokkaido.jp/kurashi/271/299/305/d058064\\_d/img/005.jpg](http://www.city.asahikawa.hokkaido.jp/kurashi/271/299/305/d058064_d/img/005.jpg)

■ “きた住まいる全道一斉オープンハウススタンプラリー” を開催中です  
(11月30日まで)

道では、きた住まいるメンバーが設計や建設をした住宅を見学できる“全道一斉オープンハウス”を開催中です。会場をまわってスタンプを集めると抽選で道産名品が当たるスタンプラリーも実施しています。対象期間は11月30日(水)までとなっております。お近くのオープンハウスを訪問して、きた住まいるメンバーによる安心で良質な家づくりを体感してみませんか。

詳しくは、ウェブサイト『きた住まいるランド』からご覧下さい。

↓ ↓  
<http://www.kita-smile.jp/stamp.html>

(※既に終了したオープンハウスもありますので、「オープンハウス情報」で事前にご確認ください。)

↓ ↓  
[http://www.kita-smile.jp/open\\_house\\_area.html](http://www.kita-smile.jp/open_house_area.html)

(企画課 盛永)

-----  
研究紹介「「ひと・もの・価値のフロー」を可視化する手法の開発」  
(平成27年度研究開発推進費、平成28～29年度経常研究)  
-----

人口減少がつづく農山村地域において「地域が将来にわたって生き残っていくためのしくみをデザインする」ことは一つの重要なテーマです。地域が生きるには、当然、経済的に元気になることが必須ではありますが、その一方で、「世の中、金だけで動いているわけではない」と言われるのも事実です。持続性のある社会システムを作り上げていくには、経済的観点だけでなく、人の行動原理も含めて総合的に扱う必要があります。しかし現状では経済的な方は定量的な解釈・予測がある程度可能なのに対し、人の行動の方はなかなか取り扱いが難しく、経済的観点と合わせて総合的に扱う手法はまだ確立していません。

ただ、お金“以外”で動く部分が全く説明不能かといえ、案外そうでもありません。地域の中でのお金・もの・サービスなどのやりとりについてインタビューした結果を図にしてみると、お金+ $\alpha$ で考えれば“損得勘定”がきちんと成立している行動が案外多いことに気づきます。この研究では、この“+ $\alpha$ ”の部分を中心に、地域生活における「ひと・もの・価値のフロー」をどうやって可視化するかについて検討しています。きちんとした定量化はできませんが、地域生活の中の“損得勘定”という切り口で整理することで、経済的観点と人間の行動原理を総合的に取り扱うことが可能になると考えています。

この研究で、いま具体的に検討をしているのは、どこまでの内容を“+ $\alpha$ ”に含めるか、です。たとえば、「愛情」みたいなものを入れてしまうと、おそらく「損得勘定」で説明するのは非常に難しくなります。しかし、見方を変えて、たとえば「結婚はある意味、契約という側面がある」というドライな考え方に立てば、夫婦間の助け合いは、結構なところまで「損得勘定」で説明することができそうです。そもそも夫婦の関係を「損得勘定」で説明するべきか、ということはおき、本研究の本来の目的である、「地域が将来にわたって生き残っていくためのしくみをデザインする」ことを考える時には、「愛情」や「愛着」を拠所にしたシステムは、個人の「気持ち」に頼ることになり、あまりに不確実で、他地域での汎用性にも乏しいと言わざるを得ません。

もちろん、実際の場面においては「地域への愛着」や「思い入れ」を持った方々の存在は極めて重要な推進力となります。ただ、社会のしくみとして、あくまで一定の「損得勘定」に基づいてデザインされたものになっていれば、た

とえ個人が何らかの事情で地域を去ったり、また「心変わり」をしてしまったとしても、システムが継続される可能性は高いと言えます。

このような持続可能性の高い社会システムをつくる上で、議論の基本的な情報を提供できるツールとして、「ひと・もの・価値のフロー」を可視化する手法の開発を進めています。

(居住・防災G 牛島)

---

### ひとことエッセイ「ブルーグラス」

---

趣味はなんですかと聞かれて、答えてきたのは「ブルーグラス」。「そうなんですか！私もやっていました」と言う答えをずっと期待していたが、残念ながら知らないという答えばかり。

ブルーグラスとはアメリカで生まれたアコースティックなストリングバンド音楽のことで、基本的な楽器編成はバンジョー、マンドリン、ギター、ベース、フィドル（バイオリン）である。西部劇で流れるバンジョーの音楽と言えはわかる人が多い。カントリーをもう少し泥臭くした、いわば日本の民謡のようなモノなので知っている人は極めて少ない。

曲の特徴と言えば、テンポが速く、メジャーで全て同じ曲に聞こえる。いま考えればなぜこれにはまってしまったのかよくわからない。「素人を驚かすにはテクは不要。ひたすら早く弾けば良い」。これが同じ曲に聞こえる元凶だと思う。

家族の評判は当然のことながらよろしくない。いつも同じ曲だとか、何弾いているか良くわからないとか、流行の曲は弾けないのとか・・・

かつてのメンバーは今でも活動しているらしく、年賀状で嬉々とした報告が細かく書かれており、楽しさが伝わってくる。

バンドを離れて30年以上経ってしまったいま、親父バンドの結成を夢見て、周囲に気遣いながら公宅で一人あのと看ときと同じ曲を弾いている。

(北方建築総合研究所 田中)

---

### 最近の研究所の動き

---

#### ■ ジャパンホーム&ビルディングショー2016に出展しました

平成28年10月26日（水）～28日（金）に東京都「東京ビッグサイト」で開催された「Japan Home & Building Show 2016」に参加しました。

(参照：<http://www.jma.or.jp/jhbs/index.html>)

北海道では、道内民間企業・団体・道・道総研などが一丸となり、本道の住宅建築技術や道産建材の全国への販路拡大、情報発信を行っております。

道内出展企業のプレゼン会場にもなる北海道ブースは、北海道の新しいキャッチフレーズ「その先の、道へ。北海道」を掲げて、ディスプレイデザインを一新、こちらまでできたの「きた住まいる」CMソングが流れる賑やかなブースとなりました。また新たな企画として、北海道パビリオン内の各ブースを巡るスタンプラリーを実施し、多くの来場者に参加いただけました。

建築研究本部からは企画課から課長の廣田と私がブースの運営に参画し、きた住まいるや研究成果のPRをしました。私は今回運営側として初めて参加させていただきましたが、新しい技術に関心のある来場者や、出展者どうしの良い交流の場になっていると感じました。このようなつながりを生かし、今後、出展された企業の販路拡大や新たな技術開発が進むことを期待しています。

(企画課 立松)

■構造計算適合性判定センターから

□10月の判定業務

受付 8件 (9棟)

結果通知 17件 (20棟)

10月の判定依頼は、共同住宅5件、病院1件、倉庫1件、ホテル1件でした。なお、図書付き事前相談を含めた受付件数は9件であり、昨年同月の3件(図書付き事前相談を含めると7件)と比べると申請件数は増加傾向にあるといえます。

総判定日数(受付から結果通知までの期間)の平均日数は24.0日(前月比+4日程度)、実判定日数(設計者の修正期間を除く実際の審査期間)の平均日数は8.8日(前月比+1日程度)となりました。総判定日数が延長した理由の一つとしては、結果通知を出す物件が今月は非常に多かったことに起因していると思われます。今後も多くの物件を遅滞なく処理できるよう、円滑な審査を心がけるとともに、より期間短縮を図ることが出来るような作業分担の見直しなどに努めていきたいと考えております。

10月21日午後において鳥取県中部で発生したM5.8の地震は最大加速度1494ガルを記録したと防災科学技術研究所では発表しています。ただし周期は0.4秒程度の短周期が卓越した結果建物の倒壊などには至らず、屋根瓦などの各部分の被害に留まったものと言われています。(倒壊、半壊は10棟未満であるが各部分の破損は1万棟を越えているといわれております。)

一方で、2013年より気象庁から試行的に情報発信されている「長周期地震動階級」では本地震は階級3に匹敵する長周期地震動が発生したとされており、大阪府内では高層ビルにおいてエレベーターの停止などが確認された模様です。

長周期地震動については、今後とも更なるデータの蓄積や対策の検討が必要となる分野であることは間違いありません。

(構造判定 G 本間)

-----  
次号のお知らせ  
-----

■「JNLA」とは

建築研究本部は平成28年9月7日付けで、(独)製品評価技術基盤機構(NITE)認定センター(IA Japan)よりJNLA試験事業者として認定されました。

JNLAとは工業標準化法(JIS法)に基づく試験事業者登録制度で、国際標準化機構及び国際電気標準会議が定めた試験所に関する規格(ISO/IEC 17025)の要求事項に適合しているかどうか、独立行政法人製品評価技術基盤機構が審査を行い、試験事業者を登録する制度です。この制度で登録された試験事業者は、その証(あかし)として、登録された区分の試験について『JNLA標章』の入った試験成績書の発行が認められます。

では、建築研究本部 北方建築総合研究所が発行する『JNLA標章入り試験成績書』は、どのような場合に活用できて、また、どのような効果があるのでしょうか。次号から、登録区分などの具体的な解説を順次掲載いたしますので、ぜひご覧いただき、当研究本部の試験メニューをご活用ください。

<参照>

北総研HP ↓↓

<http://www.hro.or.jp/list/building/research/nrb/support/jnla.html>

製品評価技術基盤機構 nite HP ↓↓  
<http://www.nite.go.jp/iajapan/jnla/index.html>

(企画課 盛永)

=====  
管理者からのお知らせ  
=====

アドレスを登録した覚えのない方は、お手数ですが下記の各種お問い合わせ専用アドレス宛てにメールにてお知らせください。  
登録内容の変更や配信停止は、下記のアドレスをクリックしていただき、ホームページ上で手続きを行ってください。クリックしても正しく表示されない場合は、アドレスをコピーしてブラウザに貼り付けてご利用ください。  
メールアドレスの変更、配信停止の手続きを行ったにもかかわらず、行き違いにより配信される場合がございますので、ご了承ください。

■購読申込・変更・配信停止はこちら

[https://www.hro.or.jp/cgi-bin/mail/index.php?id=hokusoken\\_n](https://www.hro.or.jp/cgi-bin/mail/index.php?id=hokusoken_n)  
変更・配信停止の場合は、ご意見、ご質問欄に「変更」または「配信停止」と記載してください。

■各種お問い合わせメールフォーム

[https://www.hro.or.jp/cgi-bin/mail/index.php?id=hokusoken\\_q](https://www.hro.or.jp/cgi-bin/mail/index.php?id=hokusoken_q)

ご登録いただいた情報は、メールマガジンの配信及びイベント情報の配信を目的として利用し、それ以外の目的に使用することはありません。

---

発行：(地独)北海道立総合研究機構 建築研究本部  
<http://www.hro.or.jp/list/building/research/nrb/index.html>